

国立病院機構徳島病院
(吉野川市鳴島町敷地)
で全身の筋肉が衰えてい
く進行性の病氣、筋ジス
トロフィーと闘う蔭山武
史さん(33)が、闘病記
「難病飛行 頭は正常、

体は異常。」を出版し
た。人工呼吸器を付け、
わずかに動く指先でパン
コンを操り執筆。障害と
向き合ってきた青春、家
族への感謝の思いなどを
つづった。

生の証し 残したい

徳島病院に入院 蔭山さん 筋ジス闘病記 出版

青春や感謝つづる

蔭山さんは大府府で生まれ、5歳で筋ジストロフイと診断された。小学3年生まで、自宅がある



闘病記を出版した蔭山さん(左)と母親子さん(右)吉野川市鳴島町の徳島病院

神戸市内の普通学校に通
ったが、そのあと三田市
内の専門病院への入院に
伴い、併設の看護学校に
転校。29歳には肺炎にな
り、気管切開の手術をし
て声を失った。
より進んだ治療を受け
るため、3年前に徳島病
院へ。月1度ほど、家族
の支えで旅行や映画館に

行ったり、自宅に戻った
りするのを羨しみにしな
がら過ごしている。
闘病飛行は、「生きた
証しを残したい」との思
いで出版。特殊なマウス
を指に挟み、昨年7月か
ら1年余りかけて書き上
げた。

同じ病気で苦しむ仲間
が何人もごくなり納望し
たことや、映画に湧きつ
けられたこと、看護士に
恋をしたことも添筆々に
つづった。
闘病と闘う自身の心境
について「朝、目が覚め
て生きていることに幸せ
を感じる。同時に、「寝
たきりで障害者」という
現実を落胆するときもあ
る」と書き、支えてくれ
る家族らには「心からお
礼を言いたい。ありがと
う」と感謝の言葉を送っ
ている。

蔭山さんは「恥ずかし
い経験もすべて正直に書
いた。一人でも多くの入
院者に読んでほしい、病氣に
ついて理解してほしい」と
願っている。
闘病飛行は牧歌舎刊、
169円で千円。